

海老名市立中新田小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第2回)

- 1 日時 令和8年9月16日(水) 10:00～12:00
- 2 場所 海老名市立中新田小学校 生活科室
- 3 出席委員 笠原祐治会長、西澤弘毅副会長、鍵渡香代子委員
杉本幸一委員、多田由紀江委員
高田君恵委員、長濱徳克委員、角田和博委員、
打野公一委員、別府裕二委員、片岡桂太委員

4 会議の内容

(1) 会長挨拶

笠原会長：今年度は、9月1日始まりとなった。中新田かかしまつり(計60体あたり)が実施されている。そのうちおよそ5分の1である12体が4年生から出展している。祭りの存続という点でも、小学校の活躍は大きい。先日15日(火)に学校応援団会議があった。その中で、子どもがたくさん大人と触れ合うことの大切さを再認識ができた。また、中学校区のコミュニティ・スクール会議が実施された。その中で、「指示待ち」や「自分から挨拶するのが難しい」という児童生徒が増えてきたことが課題の1つとして挙げられた。その課題解決のために地域で協力して進めることができればと思う。

(2) 校長挨拶

打野校長：夏休みが長くなり、児童の過ごし方は様々であった。始まり2週間ほどが経つが、笑顔で過ごしている児童が多い。雨の日が多く、これからストレスが溜まってくる可能性があり、注意して見ていきたい。現在、学校に來られていない児童はいないことは明るい材料である。また、夏休みは日本全国で災害が多く、始業式ではその点の注意喚起を行った。先日、児童朝会で運営委員会が「挨拶の大切さ」の劇を行ってくれた。その成果もあり、挨拶をする児童が最近が増えた。

(3) 報告・協議

①「2学期の学校行事運営について」

- ・学校公開 9月24日(木) PTA 除草作業・25日(金)
- ・運動会 10月10日(土)
- ・音楽会 11月12日(木)・13日(金) 保護者公開
- ・もちっ子ひろ場 12月5日(土)

① についての協議

西澤副会長：学校公開のことも含めて、8月の終わりにあった不審電話の対応等を教えていただきたい。

別府教頭：西門の施錠と正門の閉門の強化を実施している。

打野校長：8月30日までにという不審電話とあったが、現状も施錠や閉門の強化は継続中である。今回は海老名警察からの話もあり、市教委から保護者LINEにも送信された形である。とりわけ門が開いている状態はできるだけ避けたいと1学期から思うところはあったので、今回の件を契機に強化していきたい。

笠原会長：4年のいじめ防止教室とあるが1学期いじめというものはどうであったか。

打野校長：大きないじめ、があるという声は1学期においては聞いていないが問題が何もないというわけではない。

笠原会長：音楽会保護者公開について何か。来賓として参観することは11月13日（金）でも児童公開の12日（木）でも大丈夫か。

打野校長：大丈夫です。キャパシティの問題もあるので運営協議会のメンバーのみに限りたい。

高田委員：運動会や音楽会を見に行くことに興味はある。

笠原会長：えびな支援学校は、過去には中新田小学校に見に来たことがあると記憶している。

高田委員：「地域連携」でアクションを起こすことは大切であるが、新しく何かを新設するのではなく、既存のものを大切にしていって、例えば「リハーサルを見る」とかそのような事があってもよいと思う。

鍵渡委員：幼・保・小の先生の連携は多いが、子どもの連携の数は多いとは言えない。そのような中で、1年生との交流は貴重であり大事にしたい。

笠原会長：運動会然り、保護者然りであるが、保護者は来るが「地域の方」の数を増やすことはできないだろうか。

打野校長：場所のキャパシティ、教員のキャパシティに課題はあるが、例えば学校応援団の力を借りながら、可能な限り前向きに考えていきたい。

多田委員：海老名高校文化祭が先日行われ、この地域の方々にも多くの方に来ていただいた。「地域」「ひらかれた学校」はもちろん大事ではあるが、文化祭でもそれ故にトラブルが少なくはない（公開するデメリットもある）。

笠原会長：もちっ子ひろ場について何か。

杉本委員：中新田の連合自治会の規模は大きい。先生方の力も借りることとなるがよろしくお願いします。他の行事でもここにいる委員と大きなつながりがあり、感謝申し上げます。

打野校長：「もちっ子ひろ場」は、地域の方が学校行事の中で一番入りやすい行事と考えているので、是非とも来ていただければありがたいです。

- ② 令和8年度学校運営協議会における「対話の場」について
・フルインクルーシブ教育の実現に向けて

②についての協議

打野校長：第3回のこの場では、教育長始め、教育支援課支援係の方を含めてフルインクルーシブについて話し合う時間を設けていただきたい。

現状の本校フルインクルーシブの考え方として「ホームは教室」ということを忘れずに、職員で共有していこうとしている。教育支援コーディネーターを中心に職員や子ども、保護者をつないでいる。現在も模索しながら進めている。

西澤副会長：急に「話し合う」となっても、難しいので、事前にどのように進めていくのかを知りたい。

(4) 意見交換

角田委員：先ほど多田委員の話から、学校の行事に地域の人が自由に入ってもらうことの難しさを知り勉強になった。

また、フルインクルーシブの「フル」とはどのくらいまでを示しているのか気になるところではある。

長濱委員：中新田小学校との交流についてあまり聞いてはいないので、今後は増やしていければよいと思う。農業高校の方からも積極的にアプローチをしていきたい。

高田委員：いじめが少ないのは教育支援コーディネーターが機能しているからだと思う。コーディネーターが学校を巡視することができる環境は非常に大切である。

多田委員：フルインクルーシブは「県」での大きな施策ではあるので、高校側でも大事にしていかななくてはならない問題である。市立の学校が教育長と「対話の場」を設けることは驚きである。県立の校長会でもフィードバックしていきたい。

杉本委員：自治会という立場でパトロール等を中心に支援していきたい。

鍵渡委員：保護者の子どもの育て方で「難しさ」を抱えている家庭は多い。支援が必要な園児に関しては、県との連携のもと加配をつけている現状である。そこから小学校の接続も決して簡単ではなく課題も多い。これらの問題がフルインクルーシブの名の下にどれだけできるのか、教育長にも話してみたい。

西澤副会長：市内小中学校の不登校の現状をみると、中新田小の少なさ（常時不登校がいない）はとてもすごいと思う。フルインクルーシブ教育について。理想と現実をどこまで見ていくかが大事になると思われる。どちらも達成できない「形」だけにならないようにしていただきたい。

笠原会長：この学校の教育支援コーディネーターが、優秀でしっかりと屋台骨を支

えているのが良く分かる。また、各担任の表情がよいのも印象的である。

(5) 連絡

- ・第3回中新田小学校運営協議会日程調整

日時 令和8年2月24日(水) 9:30～12:00

場所 中新田小学校 生活科室

内容 ・学校評価について

・令和9年度学校経営について

・対話の場

「フルインクルーシブ教育～みんなで考えよう海老名の教育～」

(6) 授業参観

- ・参観後、各自解散